

初代所長の思い出

田中 恭生

私が新設の衛生試験所に県の衛生研究所から初代所長として赴任したのは昭和45年9月の残暑の候でした。

当初の陣容は4保健所の試験室を集合したもので総員13名、付属機器も弱体で色々な意味に於いても幼時期でありましたが、当時環境衛生が主役で大気汚染、水質汚染、更に農薬や添加物の食品からの分析、その他細菌学的衛生検査等々の行政依頼が多く多忙の毎日でした。その為め年々予算も人員も増え最終的に36名となり検査機器も不十分ながら一応整備することが出来た事を思い出されます。

あれから20年が経ち人でいえば成人式を迎えたわけであります。更に平成5年をめどに新築拡充整備する計画がなされていることを聞き大変喜しく思います。そこで各員も尚一層の勉学、研究に精進し地域社会の衛生管理に寄与すると共に衛生試験所の発展に尽力される事を心から期待いたします。

2 代 所 長 の 思 い 出

北 原 郁 也

月日の経つのは早いもので、福岡市退職後10年余り経過しました。

退職後は直ちに(株)サニー、次に寿軒に勤務し、何れも食品衛生の向上に勤めて参りましたが、何れの会社共衛生に大変熱心で、相当の向上をみた事が私の数少い自慢の種になっています。その間衛生試験所にも度々出向き、有難い数々の教示をいただき大変感謝している次第です。

福岡市在職中の記憶や思い出は徐々に風化しておりますが、思い出すことが1つ2つあります。

先ず最初は赴任した時の備品費が年間約500万円程度でガスクロ1台購入可能な状態でした。そこで、所内全備品の購入価格と耐用年数を調べ、当時予算査定がトップダウン方式の始めの頃において、3,000万円の予算化を提出して見事認められ、新機種の分析機器等を大量に購入した事です。

また、次に分析同定担当者の分析方法等を文書化し、多数の意見を求めてマニュアル化を始めた事です。

さて、衛生試験所改築のため仮庁舎に移転され、3年後の改築を進められている様子を伺い大変なことと思いますが、今度は規模設備とも立派なものを作ってもらいたいものと念願しております。

私の在職時代は公害一つにしても地域公害防止でありましたが、今では地球温暖化やフロンガスによる紫外線障害が問題になる時代です。

規模壮大な施設をお願いしたいものです。

3 代 所 長 の 思 い 出

家 永 悌 次 郎

福岡市衛生試験所が設立二十周年を迎えられる由、心からお喜び申し上げます。

私が同所にお世話になったのは、1980年、大平正芳首相が亡くなられた年から、1984年、ロサンゼルス・オリンピック開催の年まで4年間でした。

前、北原郁也所長の敷かれました路線の跡を襲い特段の事も致しませんでした。コレラ患者の発生や斃死牛の検査など飛び入りの業務の傍ら、試験所の拡大充実のため色々と資料を集め、上層部と協議した事など思い出されます。

伺いますと、1993年を目途に新築のご計画とか、感無量なるものがあります。

私は目下、悠々自適とは名ばかりの平々凡々の日々を過して居りますが、最近、司馬遼太郎著の「街道を行く」の中で、日本医学の黎明期に関係深い *Philipp Franz von Siebold* が、ドイツ人なのに何故オランダの医官として来日したかの記述があり、面白く読みました。ついで乍ら、熟年旅行で訪れた彼ゆかりの地、Wuruzburg も Heidelberg もなつかしい思い出です。又、Heidelberg 大学の解剖学教室の前で試験検査の時に使うブンゼン・バーナー等の発明者、*Robert Wilhelm Bunsen* の大きなブロンズ像に出食わし、驚きました。

科学の限りなき発展の中、試験検査、分析等に対する社会の要求も拡大するばかり。職員の皆様のご苦勞も並々ならぬものがあると存じます。

福岡市衛生試験所の、ますますの発展を祈念してやみません。

4 代 所 長 の 思 い 出

楠 本 五 郎

福岡市衛生試験所創立二十周年を迎えられ、心からお祝い申し上げます。

設立当時を思い起こしてみますと、市内各保健所で実施していた衛生行政関連の試験検査の高度化をはかるべく、経済効率等を考慮して一ヶ所に集約された経緯があり、その後公害、環境保全関連の業務拡大に伴い、施設や組織機構等も一部強化されてきたところであります。

私が同所にお世話になったのは1984年から1987年までの3ヶ年間で、喧騒を窮めた公害行政が、アメニティを求める環境保全行政へと方向転換しつつあった時期に当たりますが、試験検査等は初の職場で蟻螂の斧よろしく皆さんに御迷惑をおかけしたことだけが、懐かしく思い出されてなりません。

歴代の所長さんの努力された後を受けて、施設設備の拡大組織の充実等のために、内部協議を重ね、予算の三役復活で、施設立て替えの必要性だけは認めていただいて喜んだ当時を思い出します。

今回は、1993年を目途に新築の具体的計画実現に向かって、各方面の学識経験者等の御意見も承って居られるということで、感無量でございます。

単に電気器具を例に取って考えてみましても、ここ20年ばかりの間に真空管、トランジスター・ダイオード、IC、LSI、超LSIと五段階の進展をみており、科学発展のスピードは目を見張るものがあります。

どうか今回新築される施設には、ある程度長いスパンの将来を展望し、算術平均だけでなく、幾何学平均も考慮した視点からの御検討をいただき、その結果に基づく計画、実現を期待申し上げます。

福岡市衛生試験所の益々の御発展、充実と日夜精進努力されている所員各位の御健勝を祈念申し上げます。

5 代 所 長 の 思 い 出

精 松 洋 一

衛生行政の科学的中核として開所した衛生試験所が今年でめでたく20周年を迎えられるに当り、心からお祝いを申し上げます。

この間、試験検査業務に対する関係各位の積極的なご理解とご支援、また所員のたゆまざる努力と研鑽により行政を科学的技術的な側面から支えてこられた功績は誠に尽大なものがあります。

しかしながら、今日のめざましい経済成長の反面、市民生活の様々な分野で種々問題が生じていることも事実であります。

公衆衛生面におきましても、AIDSをはじめとする各種感染症、あるいは食品添加物、輸入食品の残留農薬、地下水汚染の諸問題、また地球規模的な環境汚染など問題は複雑多岐にわたり、試験検査の分野もますます広い範囲と高度な技術水準が要求される時代になってまいったところであります。

一方市民の意識も物の豊かさから心のゆとりを求める時代へと変わり、健康の保持増進、快適環境に強い関心が持たれるようになってきており、これらへの対応策も迫られてきております。

このような情勢の中で、衛生試験所におかれましては、設置20周年を迎え、これからいよいよ飛躍的な発展と、期待される科学的、技術的中核機関としての存在意義が、ますます増大されるものと言えましょう。

ときあたかもこれらに対応すべく、衛生試験所におかれては、拡充整備構想が検討され、21世紀へ向けて期待と責任を荷い、激しい社会変化への対応のみにとどまらず、より積極的な発展性を打ち出し市民の保健衛生、環境保全に直結した「ラボラトリー・サービス」の拠点として飛躍されんとしておられます。

今日まで貴所が積み重ねてこられた20年の歴史と、先輩諸氏が築かれた業績を踏まえ、所員におかれては一層の努力と研鑽を重ねられ市民のニーズにこたえうる検査機関として発展されんことを期待して私のご挨拶といたします。